

議会ニュース

産業文教・総務福祉常任委員会及び議会運営委員会の合同による道内行政調査（10月24～27日）の報告が第4回定例会において行われました。

（掲載内容は報告書を要約したものです）

・3委員会合同
道内行政調査報告

3委員会合同 道内行政調査報告

高齢者「コミュニティビジネス」・麻の会 胆振管内白老町

【視察項目】

地域「コミュニティビジネス」について

麻の会・グランマの設立経過

現在の代表である赤崎寿子氏は、高齢者による「葉っぱビジネス」で成功した徳島県上勝町の取組みに刺激を受け、前代表の小沢トキ子氏と2人で、平成21年3月に（株）るどりを視察した。

視察後、白老町では、山菜・野草を使つての高齢者ビジネスなら可能と思い、地元の団体メンバーに声をかけ、ほかに12人が加わり合計14名で、平成21年4月「高齢者

コミュニティビジネス・麻の会」を立ち上げる。

中心商店街の空き店舗を借りることとして、徳島の視察からわずか3ヵ月後の平成21年6月に山菜料理の店「グランマ」を開店した。

の山菜を使った家庭料理を提供。

クマザサ、スギナ、ドクダミなどを原料とした野草茶を販売。

客層は幅広い年代で、白老町のみならず、近隣の苦小牧、登別、室蘭のほか札幌近郊町外からも数多く来ている。

新聞、テレビ等のマスコミの取材も多く、視察も多く訪れている。

1年で開店時の借金は返済した。

開店準備には、町からは補助はもらっていないが、空き店舗対策の補助金が月5万円、3年間もらえる。

今年から山菜採りの職員としてグランパ（おじいちゃん）を3人雇用（日給3千円）するの胆振振興局から600万円の補助。

21年度の来客数は6月開店



代表の赤崎氏から説明を受ける

グランマについて

営業時間・11時～15時

定休日・日曜日

ワラビ、ゼンマイ、ウド、タケノコ、フキなど四季折々



町内の空き店舗を利用したしたグランマ

白老町

（胆振管内）

人口19,444人

平成23年3月末

面積425.75 km²

議会ニュース

・ 3委員会合同
道内行政調査報告

【視察調査を終えての所感】

会長の赤崎寿子氏は、平成8年に前会長の小沢トキ子氏と白老消費者協会を設立し、当時空き店舗となっていた売店を運営し、コミュニティビジネスを率先してきました。グランマを始めるきっかけは、上勝町の“葉っぱビジネス”と出会って衝撃を受けたそう、早速現地を視察して、高齢者がいきいきと仕事をし、大きな収益を上げ、町に活気をもたらしていた。

「私たちは葉っぱではなく、山菜や野草を使ってなら白老でもできる」と思い、地元へ帰ってメンバーを募り3カ月後に開店までこぎつけるといふ、その行動力、熱意は素晴らしいものがあると感じられた。ただ、事業自体はうまく進んでいるが、地元の役場や、地域とのつながりが少ない点が少し気になる点ではある。

高齢化率が進行する社会の中で、佐呂間町でも高齢者がいきいきと仕事ができる、そして地場産品等をうまく利用したビジネスの起業を手助けする施策を検討してみてもどうかと考えさせられる視察でした。

上富良野町役場 上川管内

【視察項目】

特定健診受診率向上の取り組みについて

上富良野町の概要

上川地方の南部で北海道のほぼ中央に位置し、西部は平野で畑等が広がり、国道237号線が南北に走っており人口も集中している。

東部は十勝岳を中心とする山岳地帯の登山基地、温泉保養、ラベンダー、丘陵の景観などを資源とする観光事業にも力を入れている。



上富良野町にて説明を受ける

また、駐屯地、広大な演習場を持つ自衛隊の町でもある。

上富良野町の国民健康保険の加入状況等

1.国民健康保険加入状況 (単位：人・%)

年度	人口		国保加入率	
	総世帯	総人口	世帯	被保険者
20	5,317	12,088	34.2	28.6
21	5,276	11,906	34.5	28.4
22	5,279	11,777	34.1	28.0

上富良野町

(上川管内)

人口11,750人

平成23年6月末

面積237.18k

2.特定健康診査・保健指導状況 (単位：人・%)

年度	特定健康診査			特定保健指導		
	対象者数	実施者数	実施率	対象者数	実施者数	実施率
20	2,315	1,629	70.37	247	194	78.54
21	2,283	1,622	71.05	197	179	90.86
22	2,240	1,626	72.59	174	164	94.25

自衛隊のある町なので国保の加入率は高くはないが、退職者は国保に加入してくるので今後増加が予想される。

議会ニュース

・3委員会合同
道内行政調査報告

特定健診について

上富良野町は高医療費の町だった。

全国で3千の市町村があった当時、一人当たり医療費ラッキングで150位以内になるほどだった。

脳梗塞、人工透析、心筋梗塞になった方を訪問、検診データを並べ、レセプトデータも可能な限り並べ、どういふふう病気が発生していくかを聞いて、それを予防することが「健康かみふらの21」につながる考えた。

糖尿病から脳梗塞、人工透析に至ったAさんの事例から学んだこと

・自覚症状が判断基準、自覚症状が出てからでは遅いと理解できる資料の提供が必要。

・遺伝のある家系では若い年代層から血糖、HbA1c、75g糖負荷検査を受け、早期に潜んでいる糖尿病を発見する必要が有る。

・通院している人も血糖、HbA1c、血圧などのコントロール指標を知る必要がある。

・糖尿病は自覚症状のないま

ま進むことの重要性を知る。

糖尿病の医療費は1人生涯1億円と言われている。

しかし肥満、内臓脂肪、境界型の糖尿病の血液検査だけで過ごしていければ年間2万5千円で済む。

この時期を延ばしていきたいと考えている。

糖尿病治療のため血糖値等のコントロール状態などの資料を住民に渡すときは、色分けした表で、どこラインにいと良いか、悪いかが一目で分かるものになっている。

町の健診が終わったら、保健指導をするが、保健師が2週間ぐらいで指導できるのは800人。その800人を1

番目は積極的支援者59人、2番目に動機付け支援者111人、3番目に腎臓の働きが半分以下になつてくる人が24人、

というように、毎年検診が終わるたびに、今年は何の人達に保健指導するか、どの人達に検診データを返して学習してもらうかのランク付けをしている。

特定健診受診の有無と生活習慣病治療にかかるお金

一ヶ月の生活習慣病(通

院)医療費

・受診者1万1千円、未受診者2万6千円で1万5千円の差がある。

上富良野町総合計画の健康部門には6つの計画がある。

- ・健やか親子かみふらの21
- ・食育推進計画
- ・健康かみふらの21
- ・慢性腎臓病予防計画
- ・特定健康診査等実施計画
- ・高齢者保健福祉計画

全てのライフサイクルで生活習慣病予防

生まれてから老人になるまでを保健福祉課、教育委員会、それぞれ母子保健法、学校保健法、労働安全衛生法、高齢者の医療の確保に関する法律に基づいて健診が行われ、一人一人のデータが生涯を通して見ていくことができよう仕組み。

特定健康診査受診料

・20歳	39歳	10000円
・40歳	69歳	20000円
・70歳	74歳	10000円
・75歳		5000円

町独自の健診追加項目としてHbA1cの全員検診、クレアチニン、eGFRなど。

上富良野町保健福祉総合センター「かみん」にて町の健診はここので行われる。



【視察調査を終えての所感】

元々、上富良野町の住民には健診について意識付けられていて、健診率は特定健診が義務付けられる前の平成17年で50%以上あったそうです。

ただ特定検診が始まる2、3年前から通院中の方等にも受診勧奨に様々な取り組みをして、特定検診が始まる平成20年度には受診率も70%を超えることとなりました。

上富良野町は20数年前は医

議会ニュース

・ 3委員会合同
道内行政調査報告



療費が高い町と指定されるほどで、各自治会に入り健康学習を進め、住民の健康に対する意識を高めさせ、さらに健康づくり担当課長の岡崎氏をはじめ6名の保健師で病気にならないためには、いかに住民自身が自覚症状に気づき、健診により数値のコントロールをしていくことが重要かを認識してもらうための様々な取り組みを熱心に行い、平成22年度では特定健診受診率72・59%、特定保健指導94・25%となっている。

本町においても元氣マイレージ事業等、新たな事業にいろいろ取り組んではいるが、大幅な受診率向上には、なかなかつながらない現状であり、上富良野町での取組み等も参考にして健康なまちづくりを目指してもらいたいと考えます。

本別町議会 十勝管内

【視察項目】
議会運営について

本別町の概要

十勝地方の東北部に位置し、町の半分以上が山林の町。十勝特有の大陸性気候で夏と冬の寒暖差が大きく、一年を通じて降水量が少ないのが特徴。

町の中心部に国道242号が走り、道東自動車道のジャンクションがある。かつては林業が盛んだったが、近年の産業の中核は農業及び工業



本別町議会にて説明を受ける

で、特に地場産品の加工が展開している。

議会報告会について

本別町ではH20年12月に設置された議会活性化等調査特別委員会で活性化の取組みの一つとして「町民懇談会」という名称で議会報告会を始めた。

議会活性化等調査特別委員会

・ 議員定数と報酬を検討することで議長の諮問機関として発足した。

・ 議会の活性化の検討

H11年に活性化等調査特別委員会が出た検討項目の見直しと精査

・ 議会に対する町民アンケート

本別町

(十勝管内)

人口8,274人

平成23年9月末

面積391.99 km²

トの実施

20歳以上を対象として、20代、30代・・・と年代別に計800名を無作為抽出してアンケートを実施した。308名の回答(回収率38%)

・ 町民懇談会の開催(H21年8月7～8日)

議員15名を2班に分け、町内4箇所で開催。参加者81名。参加者アンケートの実施。(81名中67名回答)

テーマ別に意見交換会を実施
テーマ1「議員活動に対する印象と議員に望むこと」について

テーマ2「議員定数と報酬」について

・ 町民懇談会の開始時間は午後6時半だったが、農村地区は搾乳作業等に参加できないとアンケートの回答があった。

H22年3月まで60回ほど各部会で会議をもち、22の検討項目について一定の方向性を出し、その報告をもって議会活性化特別委員会は消滅となった。

議会ニュース

・ 3委員会合同 道内行政調査報告

第2回町民懇談会（H23年2月15～17日）

議員12名を2班に分け6箇所で開催。

・ 農村地区（美里別）では午前中に実施した。

参加者アンケートの実施。
（81名中66名回答）

ナイター議会について

・ 平成12年から継続実施。
・ 年1回、3月の第1回定例会で一般質問の時間を当てている。

・ ナイターでの一般質問者は4名程度。1人30分程度で午後7時から始め、9時ごろまでに終わるように調整している。日中も一般質問の時間があるので、質問項目の多い議員は日中とナイターと質問項目を分けている。
・ 日中に本会議があるときの傍聴者は10名程度だが、ナイターの時は30名を越える傍聴者となる。

その他の議会活性化対策
・ 議長との対話室

議長室において町民との語らいの場の提供。

・ 出前委員会
その地域に係る案件が

ある場合は、地域に出向いて常任委員会を開催している。

・ 広報特別委員会の常任委員会化。

・ サンデー議会の開催も検討中。



【視察調査を終えての所感】

本別町は議会活性化を目指して平成20年に「議会活性化等調査特別委員会」を設置し、その取組みの一つとして町民懇談会（議会報告会）を行った。参加しやすい開催時期、時間等の要望があり、2回目となる今年は、開催時期を8月から2月にし、開催時間も夜間だけだったものを農

村集落については午前中に開催したそうです。

また、ナイター議会は平成12年から継続して年1回3月定例会に実施しており、傍聴者は通常10名程度だが、ナイター議会は、やはり町民の関心が高く、当初よりは若干人数は減ったものの現在でも30名程度の傍聴者があるとのこと。

本町においても、今年初めて議会報告会を実施しましたが、まだまだ反省点もあつたことから、より町民が参加しやすい、分かりやすい報告会となるようさらに検討することとし、また、ナイター議会についても議会側だけでは成しえないことから、理事者をはじめ職員の協力を得ながら早期実施に向け検討したいと考えます。



第1回定例会は3月に開催されます!!

日程の詳細は、町広報3月号の折込みチラシをご覧ください。



議会ニュース

・ 常任委員会現地調査

常任委員会で 現地調査を実施

総務福祉常任委員会

11月30日総務福祉常任委員会終了後、現地調査を実施しました。

現地調査箇所

- ・ 佐呂間斎場
- ・ 佐呂間厚生クリニック
- ・ バスターミナル、ふれあいバス

平成23年度予算に係る事業箇所については計画通り実施されています。

屋根の塗装工事を実施したサロマ斎場



車庫改修及び舗装補修工事を行なったバスターミナル



厚生クリニックとなり、2階通路の閉鎖工事等を行った



産業文教常任委員会

12月1日産業文教常任委員会終了後、現地調査を実施しました。

現地調査箇所

- ・ 若佐公営住宅
- ・ 佐呂間スキー場ロッジ
- ・ 浜佐呂間パークゴルフ場
- ・ 浜佐呂間麦乾燥施設
- ・ 佐呂間30号道路ほか

平成23年度の事業は計画通り実施されておりました。

また、農協が事業主体の麦乾燥施設の増設事業は、組合員の安定した共同利用に供される施設となっていました。

新築され、平成23年末に入居開始となった若佐公営住宅



外壁修理、塗装や玄関の滑り止め等の改修を行った町営スキー場ロッジ



農山漁村活性化プロジェクト交付金を受けて増設された浜佐呂間の麦乾燥施設

